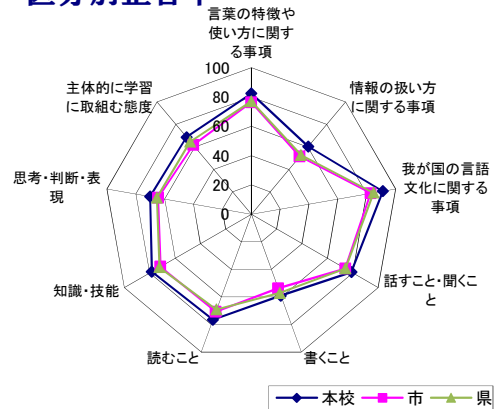


宇都宮市立今泉小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	82.3	76.4	77.0
	情報の扱い方にに関する事項	60.4	51.5	52.7
	我が国の言語文化に関する事項	91.1	82.8	84.7
	話すこと・聞くこと	78.9	74.1	74.2
	書くこと	59.1	53.7	57.2
観点	読むこと	76.5	70.7	69.2
	知識・技能	78.3	71.6	72.3
	思考・判断・表現	70.0	64.6	65.4
	主体的に学習に取り組む態度	68.7	61.6	64.7



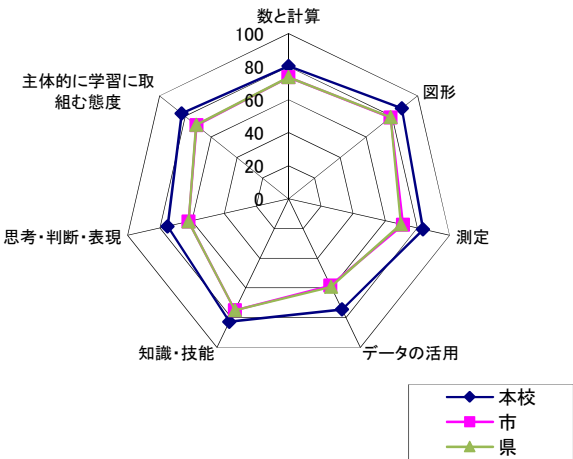
★指導の工夫と改善

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均を5.9ポイント、県の平均を5.3ポイント上回っている。 ○第3学年に配当されている漢字の読み・書き、主語と述語についての理解、様子や行動を表す語句の表現については、県の平均正答率に対して、同程度か上回っている評価である。同程度のものについても、その正答率は9割を超えており、理解はできている。 ●ローマ字で表記されたものを正しく読むことについては、県の平均正答率を下回っている。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・ローマ字の書き方について、bとdなどの文字の違いや「きゃ・きゅ・きょ」等、拗音のローマ字表記など、苦手とする部分にポイントを絞って、他教科との関連を図りながら、積極的に授業中に取り入れ、意図的に復習をしていくことができるよう工夫する。 また、その定着化を図る。 ・既習漢字は、今後も家庭学習等に継続して取り組むよう支援していく。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均を8.9ポイント、県の平均を7.7ポイント上回っている。 ○本事項は、国語辞典の使い方の理解や、情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約したり、考えとそれを支える理由との関係を明確にして書いたりすることを問われている。いずれも県の平均正答率に対して上回っている評価である。 ●情報と情報との関係について理解し、考えとそれを支える理由との関係を明確にして書くことについては、県の平均を上回るものの、正答率は5割を切っており、個人差が見られる。	・情報の意図を読み取り、様々な情報と比べて、自身の目的や条件に合わせて再構成していく機会を増やすために、他教科との関連を図りながら、学習のまとめなどの場面で、得た情報を活用することを意識できるよう工夫する。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は、9割を超えていて、市の平均を8.3ポイント、県の平均を6.4ポイント上回っている。 ○本事項は、漢字のへんやつくりの理解を問われている。県の平均正答率に対して上回っている評価である。	・既習漢字と同様に、漢字のへんやつくり、ことわざや故事成語等言語に関する学習についても、今後も家庭学習等に継続して取り組むよう支援していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均を4.8ポイント、県の平均を4.7ポイント上回っている。 ○話の中心を明確にするための話し手の工夫を捉えることについては、県の平均正答率に対して上回っている評価である。 ●話し手が伝えたいことの中心を捉えたり、相手に伝えるように自分の考えを理由をあげながら話したりすることについては、県の平均正答率に対して同程度という評価であり、県の平均を上回るものの、個人差が見られる。	・日常の学習にペア学習やグループ学習を積極的に取り入れながら、自分の考えとそれを支える理由までを含めて、意見を述べるられるような機会を増やしていく。 ・大切なことを落とさず聞くために、話を聞く時のポイントや話し方、気を付けるべきことについて繰り返し指導を行っていく。
書くこと	平均正答率は、市の平均を5.4ポイント、県の平均を1.9ポイント上回っている。 ○自分の考えとそれを支える理由を明確にして文章を書くことについては、県の平均正答率と同程度という評価ではあるが、正答率は8割ほどである。 ●目的を意識し、集めた材料を比較したり分類したりして、伝えたいことを明確にすることや、自分の考えとそれを支える理由を明確にして指定された長さで二段落構成の文章を書くことについては、県の平均正答率と同程度という評価である。その中で、段落の役割について理解し二段落構成で指定された長さで文章を書くことについては、5割から6割ほどの正答率であり、個人差が見られる。	・学習の中で、自分の考えをそれを支える理由も含めてノートに書く際、事前に話し合う活動を取り入れ、自分の考えを十分に深めた上で書くなど、自分の考えを深めて十分な量で書くことに慣れていけるようにする。 ・他教科との関連を図りながら、個人やグループによる新聞づくりや学習のまとめづくりなどで、集めた様々な情報を比較分類して、目的や条件に合わせて文章を書く機会を増やし、文章の構成・段落に注意して文章を書けるような指導をしていく。
読むこと	平均正答率は、市の平均を5.8ポイント、県の平均を7.3ポイント上回っている。 ○物語の登場人物の気持ちや場面の様子、説明文の文章や段落の内容を叙述をもとに捉えること、また、文章を読んで感じたことや考えたことを共有することについては、県の平均正答率を上回っている評価である。 ●情報と情報との関係について理解し、中心となる語や文を見付けて要約することについては、県の平均正答率を上回っている評価であるが、その正答率は4割強であり、個人差が見られる。	・読書をする際に、好きなジャンルのものだけでなく、様々な本に親しむことができるよう、声掛けをしていく。その中でも、ブックトークなどを利用し、説明文を読むことに興味を持ち、まとめたり段落を意識し、それぞれの段落の内容を捉え、段落同士がどのように結びついているのかを考えながら読めるような場を増やしていく。

宇都宮市立今泉小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	80.4	73.5	73.6
	図形	87.8	79.0	79.1
	測定	83.6	71.1	69.8
	データの活用	74.4	58.4	59.2
観点	知識・技能	82.7	75.0	75.0
	思考・判断・表現	75.2	62.1	62.1
	主体的に学習に取り組む態度	82.9	71.4	71.6



★指導の工夫と改善

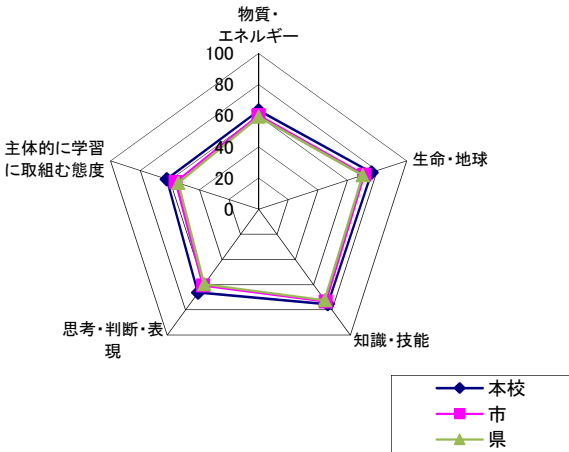
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均を6.9ポイント、県の平均を6.8ポイント上回っている。 ○基本的な四則計算については、全て県の平均より上回っているため十分に身につけていると考えられる。 ●かけ算の筆算に出てくる数の意味を問う問題に課題が見られる。	・今後も日常生活と関連した教材の設定を工夫して、算数で学んだ知識や技能を日常生活や他の教科の学習の中で用いようとする態度や目的に応じて用いることができる力を育てていく。 ・既習内容はほぼ身につけていると考えられるが、かけ算のひっ算の仕組みについて、定着が十分でない児童がいるので、今後も繰り返し復習させ、定着を図っていく。
図形	平均正答率は、市の平均を12.5ポイント、県の平均を13.8ポイント上回っている。 ○正三角形の作図方法について、十分に理解している。 ●円と球の半径と直径の関係性を問う問題では、正答率が県や市を上回っているものの、個人差が見られる。	・具体物が準備できるものは、実際に使用して視覚的に求められるようにする。 ・4年生で学習する垂直や平行の指導の際、正三角形の定義を振り返ったり、作図したりして、学習内容を確認し習熟を図っていく。
測定	平均正答率は、市の平均を11.8ポイント、県の平均を8.7ポイント上回っている。 ○時刻と時間や長さ(道のり)に関する問題の意図をよく理解し、正しく求めることができている。 ●重さの単位の換算を問う問題に課題が見られる。	・単位の前にkがつくと、もとの単位の1000倍になることを理解するとともに、日常生活の具体的場面における量感と、学習で習い覚える知識が結びつくような、知識を生活に生かすことができる場を、算数に限らず様々な学習場面において設けていく。
データの活用	平均正答率は、市の平均を15.8ポイント、県の平均を15.2ポイント上回っている。 ○棒グラフの目盛りの大きさに着目して、正しく棒グラフを読み取り、理由を説明することができている。 ●複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み取る問題に課題が見られる。	・算数だけでなく、社会科や理科等で表やグラフを読み取る学習を取り入れていく。また、その際、読み取るための観点を整理し、考えたことを伝え合うことで、多面的な考え方を知る機会を設定していく。

宇都宮市立今泉小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	63.3	60.2	59.2
	生命・地球	76.3	71.3	70.3
観点	知識・技能	75.5	73.4	72.3
	思考・判断・表現	66.3	60.6	59.6
	主体的に学習に取り組む態度	62.0	55.9	54.2



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は市の平均を4.2ポイント、県の平均を5.2ポイント上回っている。 ○「光のせいしつ」「風やゴムのはたらき」「じしゃくのせいしつ」「物の重さ」「電気の通り道」など、ほぼすべての設問の正答率が、県や市の平均より高い。特に、「風やゴムのはたらき」において、ゴムと物を動かす動きの関係を表から読み取る設問の正答率は、県の平均より14.9ポイント上回る。 ●「じしゃくのせいしつ」の磁石につく物とつかない物についての設問では、県平均より10.9ポイント下回っている。	・学習問題が定着していない部分に関して、今後、練習問題等を活用し、知識の定着を図るとともに、記述式の問題にも積極的に取り組めるように支援していく。 ・授業時間以外の普段の生活の中で抱く、様々な事象に対して興味を持てるようにしたり、生じた疑問について、解決への支援を行ったりすることで、理料的な知識や思考を高められるように指導する。
生命・地球	平均正答率は市の平均を5.0ポイント、県の平均を6.0ポイント上回っている。 ○「こん虫の育ち方」「太陽と地面のようす」に関して、どの設問においても、県や市の平均より高い。特に、「こん虫の育ち方」において、モンシロチョウがキャベツの葉にたまごをうむ理由を説明する設問の正答率が県の平均より18.6ポイント高かった。 ●「方位磁針の正しい使い方」についての設問では、正答率が、県の平均よりわずかに下回った。 ●「太陽と地面のようす」の影のでき方や太陽の動きと影の位置の関係についての設問は、ともに県の平均より少し上回っているが、正答率は約5割にとどまった。	・観測や測定で使用する器具の使い方については、誰もが実際に使用する経験をする中で、観察・実験の技能を高めるとともに、正しい知識を身につけることができるようにする。 ・理解が不十分な部分に関しては、学習プリントなどで知識を定着させ、その知識と経験等を結び付ける活動を多く取り入れることで、より理解が深められるように指導する。

宇都宮市立今泉小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、テストでまちがえた問題について勉強している」の質問では、肯定的回答率が県や市の平均を大きく上回っている。自分の誤答を把握し、改善していこうとする姿勢がうかがえる。

○「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」の質問に、肯定的に回答した児童の割合は、67.8%と、県や市の平均に比べて17ポイント以上上回った。学区内に市立図書館があることや、今年度導入された、一人一台端末の利用が順調であることがうかがえる。

○「国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気を付けて書いている」の質問に、肯定的に回答した児童の割合は、84.5%と、県や市の平均に比べて7ポイント以上上回っている。普段の授業で理由を書く機会を多くとっているため、習慣化してきていると思われる。

●「授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている」の質問では、肯定的回答率が64.4%と、県や市の平均に比べ14ポイント下回っている。コロナ対策のためグループで話し合う活動を制限されているためと思われる。限られた時間の中で、話し合い活動ができる機会をもつ。